氏名： 伊藤　美重子
所属： 人間文化創成科学研究科文化科学系
職名： 准教授
学位： 博士（人文科学）
専門分野： 中国古典文学・中国古典語学
E-mail： ito.mieko@.ocha.ac.jp

◆研究キーワード　／　Keywords

中国文学／敦煌写本／説文解字
Chiniese　Literature ／ Dun-huang　Manuscript ／ Shuo-wen-jie-zi

◆主要業績　　総数（1）件

・敦煌文学にみる学校？「学郎題記」をめぐって（於：お茶の水女子大学中国文学会大会　29．4．25）

◆研究内容　／　Research Pursuits

敦煌写本を資料として、唐末五代の敦煌の生活文化を探索することで、中国の民間レベルでの文化活動の形態を明らかにすることを課題としている。

敦煌文書の中には、すでに中央では失われてしまった資料が多く含まれている。それら資料の意義を明らかにすることを目指している。

◆教育内容　／　Educational Pursuits

学部においては、コア科目「中国語初級」を担当、また、LA 科目「ことばと世界」系列の「ことばを探る（演習）」を担当し、漢字をめぐる問題を学生とともに考えた。

専門科目では、「中国古典文献講読入門」「中国古典文献講読基礎」を担当し、中国の古典文献を読むためのスキルに関する講義演習をおこなった。また、「中国古典語学講義演習」「中国古典語学講読演習」を担当し、段玉裁『説文解字注』の講読をおこなった。

大学院の授業では、敦煌文学作品（伍子胥変文）の講読をおこなった。

このほか、卒業論文、修士論文、博士論文の指導をおこなった。

◆研究計画

ここ数年は敦煌文書の中から「学校」に関する資料を収集調査し、「学郎題記」「教訓書」を中心テーマとして研究を進めてきた。

当時の敦煌の学校では、通俗文学も教材として用いられていたと考えられる。そこで、今後、それらの文学作品の役割と意義について考えたい。

その上で、あらためて、敦煌の通俗文学作品を中国文学史の中に位置づけたい。

◆メッセージ

中国は文字の国である。甲骨文から現在、中国で用いられている簡体字にいたるまで、脈々と文字文化を伝えてきた国である。

漢字文化は中国のみならず、周辺各国にも影響を与え、日本もその例にもれない。漢字や漢字によって書かれた文章を読むことは、同じ漢字文化圏に属するものとしてみずからを発見するよい機会となる。

中国文化を学ぶことで、いろいろな発見をしてほしい。